

「石の百年館」がオープン

3月30日(日)、稲田石の振興、観光交流の促進および地域活性化を図るため、JR水戸線稲田駅わきに「石の百年館」がオープンしました。

☆石の百年館について

「石の百年館」という名称には、約100年にわたり先人たちが築き上げた稲田地区の採石の歴史を広く後世に伝え、さらに100年先の発展につなげたいという願いがこめられています。

印象的な外壁は、結城紬にもみられる日本伝統の「杉綾文様」でデザインされ、稲田石材業の加工技術の高さを物語っています。

館内は、稲田石にまつわる貴重な資料がわかりやすく解説・展示されているほか、JR稲田駅隣接という立地を活かし、観光交流センターとしての機能も備えます。

☆稲田石について

笠間市稲田地区を中心に採掘される「稲田石」。恐竜が絶滅した後の時代、約6千万年前に地下深くに貫入したマグマが固まってできた岩石で、花崗岩の一種です。際立った白さが特徴の稲田石は、美しい光沢と耐久性を兼ね備え、建材や墓石など、幅広い用途に使われてきました。

稲田石の本格的な採掘が始まったのは明治22年。大消費地である東京に近く、良質な花崗岩を豊富に埋蔵していたことから、国会議事堂、国立代々木競技場、最高裁判所など、日本を代表する数々の建築物に稲田石が使用され、日本の発展を支えてきました。



記念式典の様子



稲田石の貴重な資料を展示

【施設概要】

所在地：笠間市稲田2307番地
TEL/FAX：0296-74-5114
開館時間：(4月～9月)
午前9時から午後5時まで
(10月～3月)
午前9時から午後4時まで
休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)・
年末年始
入館料：無料

【アクセス】



地域おこし協力隊イベントで焼き芋体験

笠間市地域おこし協力隊の舟越芳行さんと、本戸地区で微生物を使った無農薬栽培を営む団体「Kamos(カモス)」が、焼き芋体験のイベントを開催しました。

2日間にわたって実施されたイベントにはそれぞれ約50名の参加申し込みがあり、^{もみがらくんたん} 籾殻燻炭でじっくり焼いた甘い焼き芋を楽しみました。

また、焼き芋を焼いている合間に行われたいちご収穫体験では、集まった子どもたちが新鮮で甘いいちごを口いっぱい頬張って、うれしそうな表情を見せていました。



籾殻燻炭を使った焼き芋体験

A CITY
ICS

話題

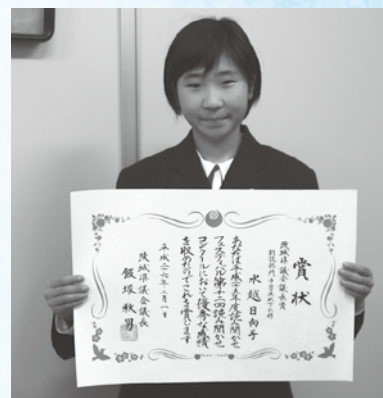
茨城県議会議長賞を受賞

2月1日(土)に茨城県立図書館で「第12回読み聞かせコンクール」が開催され、中学生の部で、水越日向子さん(東中学校1年)が県議会議長賞を受賞しました。

水越さんは「海を渡った折鶴」という作品で、原爆の後遺症で苦しんでいた女の子の気持ちや平和への願いを、登場人物の気持ちになりきって読み上げたとのこと。

市内のまゆみ朗読会ジュニアクラブに所属する水越さんは、小学5年生から朗読劇に出演しています。「標準語で話すことや、鼻濁音をきれいにすることが難しかった。次は違った物語にも挑戦したい。」と、今後の意気込みを語りました。

※学年は2月現在



受賞した水越さん

茨城県立中央病院ドクターカー運用開始

救命率の向上および後遺症の軽減を図ることを目的に、2月26日(水)茨城県立中央病院と笠間市がドクターカー運行に関する協定を締結しました。

ドクターカーは、赤色灯、サイレン、医療機器を装備して県立中央病院の救急センターに常駐し、消防本部や救急隊からの出動要請により、救急現場に医師・看護師を素早く送り届けます。緊急患者への適切な治療をいち早く行うことで、心筋梗塞・脳卒中・重症外傷症例および多数傷病者発生事故等の際の救命率の向上や後遺症の軽減に大きな効果が期待できます。



ドクターカーの前で山口市長と握手をかわす永井院長(右)と関根医師(中央)

KASAM
TOP

まちの

火災予防ポスターコンクールで最優秀賞受賞



山口市長へ受賞報告
(写真右から2人目が白井さん)

2月19日(水)、茨城県幼少年婦人防火委員会(会長・橋本昌知事)が主催する「第31回火災予防ポスターコンクール中学生の部」において、応募総数6,432点の中から白井悠華さん(笠間中学校2年)の作品が、最優秀賞に輝きました。

このポスターコンクールは、県内の小中学生から火災予防ポスターを募り、優秀作品を活用して火災予防広報を行い、一般家庭の火災予防啓発を図ることを目的として、毎年実施されています。

※学年は2月現在